

# U.S. Indicators

発表日:2020年3月6日(金)

## 米国 新型肺炎で雇用情勢悪化へ (20年2月雇用統計)

～2月にかけて労働市場は好調さ維持～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:03-5221-5001)

### 米国雇用統計

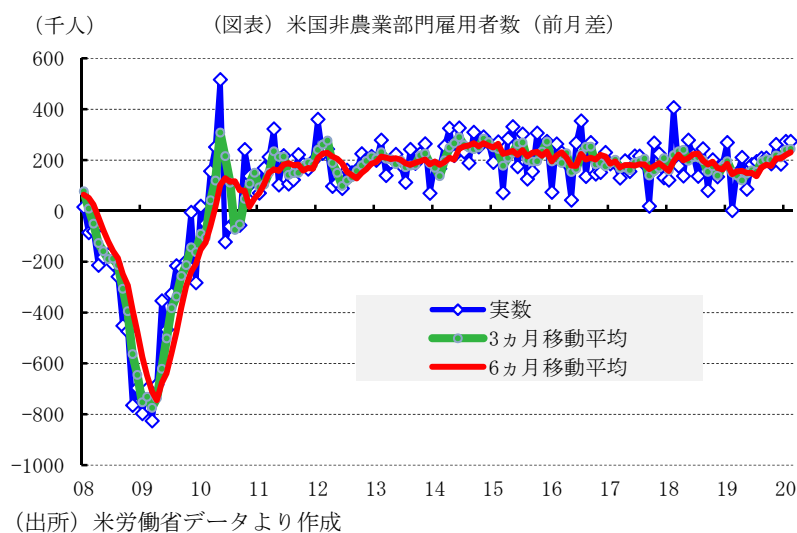
	失業率	非農業部門雇用者数								平均時給		労働時間	労働投入量	
		全体	製造業	建設業	サービス関連業				前月比	前年比	前月比		年率※	
					全体	小売業	狭義サービス	政府						
		前月差	前月差	前月差	前月差	前月差	前月差	前月差						
四半期	17.1Q	4.6	167	13	29	121	▲10	106	6	0.6	2.6	33.6	0.4	1.8
	17.2Q	4.4	189	8	15	161	▲10	132	7	0.6	2.5	33.7	0.6	2.5
	17.3Q	4.3	139	17	16	102	▲5	71	7	0.8	2.7	33.6	0.4	1.8
	17.4Q	4.1	207	24	30	152	▲4	122	5	0.5	2.5	33.7	0.6	2.4
	18.1Q	4.1	234	23	37	166	10	108	8	0.8	2.7	33.7	0.5	1.9
	18.2Q	3.9	211	25	26	155	▲12	117	18	0.8	2.9	33.8	0.7	2.7
	18.3Q	3.8	153	18	24	108	▲19	68	10	0.9	3.0	33.8	0.3	1.3
	18.4Q	3.8	172	22	16	134	▲12	110	2	0.9	3.4	33.7	0.2	1.0
	19.1Q	3.9	139	7	14	118	▲21	93	11	0.8	3.4	33.7	0.4	1.5
	19.2Q	3.6	159	4	18	137	▲10	114	8	0.7	3.3	33.6	0.2	0.6
	19.3Q	3.6	159	4	18	137	▲10	114	8	0.7	3.3	33.6	0.2	0.6
	19.4Q	3.6	203	4	9	193	3	139	32	0.9	3.3	33.6	0.3	1.1
月次	1902	3.8	1	5	▲29	30	▲29	32	7	0.4	3.5	33.6	▲0.3	1.6
	1903	3.8	147	▲3	20	130	▲24	121	15	0.3	3.4	33.7	0.4	1.5
	1904	3.6	210	2	26	182	▲12	137	25	0.2	3.3	33.7	▲0.1	0.8
	1905	3.6	85	0	9	74	▲12	74	▲2	0.2	3.3	33.6	0.1	0.8
	1906	3.7	182	9	19	156	▲5	130	2	0.3	3.4	33.6	0.1	0.6
	1907	3.7	194	7	7	185	1	124	34	0.3	3.5	33.5	▲0.2	0.6
	1908	3.7	207	3	4	205	▲1	144	50	0.4	3.5	33.6	0.5	0.6
	1909	3.5	208	3	16	189	9	149	13	0.0	3.1	33.6	0.2	1.1
	1910	3.6	185	▲41	17	205	22	151	▲5	0.3	3.2	33.6	0.1	2.1
	1911	3.5	261	58	▲2	216	▲14	178	14	0.4	3.3	33.5	▲0.1	1.8
	1912	3.5	184	▲2	16	179	41	102	20	0.1	3.0	33.6	0.2	1.5
	2001	3.6	273	▲20	49	246	▲6	156	51	0.2	3.1	33.6	0.1	0.7
	2002	3.5	273	15	42	212	▲7	154	45	0.3	3.0	33.7	0.5	1.6

20年2月の非農業部門雇用者数(季節調整済み、事業所調査)は、温暖な天候の影響による建設業や飲食業の上振れ等もあり前月差+273千人(1月同+273千人)と2カ月連続で高い伸びとなり、市場予想中央値の前月差+175千人を上回った(筆者予想前月差+188千人)。民間が前月差+228千人(1月同+222千人)と加速し、政府が前月差+45千人(1月同+51千人)と大幅な増加となった。また、2月の失業率(U3、家計調査)は、3.5%(前月3.6%)と市場予想3.6%(筆者予想3.5%)を下回った。ただし、平均時給は、前月比+0.3%、前年比+3.0%と緩やかな上昇となった。

2月の雇用統計調査週では、米国内での新型コロナウイルスの感染者数が少ないと報告されていたため、米景気や雇用への影響は限定的なものにとどまった。温暖な天候による押し上げ効果によって、高い伸びが維持された。以上のように、2月の雇用統計では、雇用者数の増加ペースが良好な天候により予想を上回ったほか、失業率が低下し低い水準にとどまるなど、2月も労働市場が好調さを維持していたことが確認された。

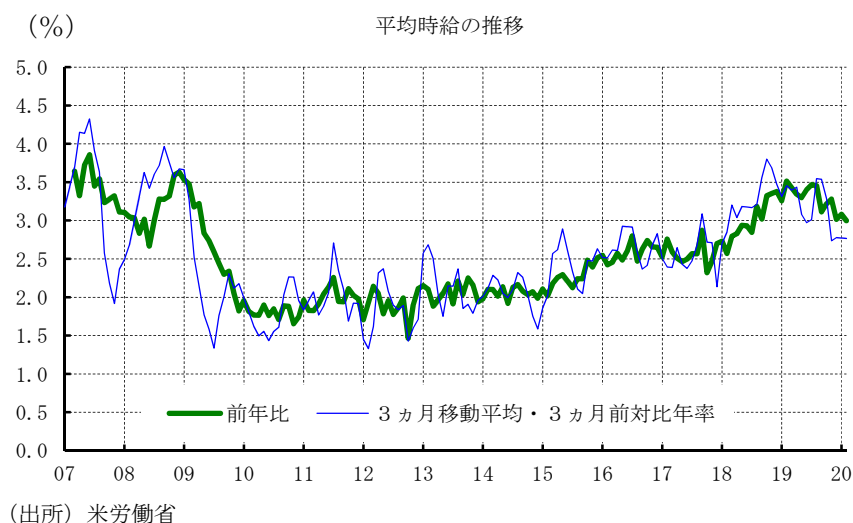
業種別では、運輸・倉庫、教育サービス、卸売業、派遣が減少に転じたほか、芸術・エンターテインメント・余暇が鈍化した。また、小売業、宿泊が減少を続けた。一方、自動車などの製造業、鉱業、不動産・リース、公益が増加に転じたうえ、建設業、医療が高い伸びを維持した。さらに、飲食店サービス、金融・保険、専門技術サービス、社会扶助が加速した。

雇用の増加基調をみると、3ヵ月移動平均（12、1、2月）では、非農業部門は前月差+211千人（前月同+198千人）と加速した。民間部門が同+205千人（前月同+211千人）と鈍化した。また、より一時的な変動の影響を排除できる6ヵ月移動平均の非農業部門（19年9-20年2月）は前月差+231千人（前月同+220千人）と加速し高い伸びとなった。雇用の増加基調は、米中貿易戦争の停戦、FRBの金融緩和などによる国内需要の堅調を背景に巡航速度（前月差+10万人程度）を大幅に上回るペースに再加速していた。景気が堅調さを増していたことを示唆している。

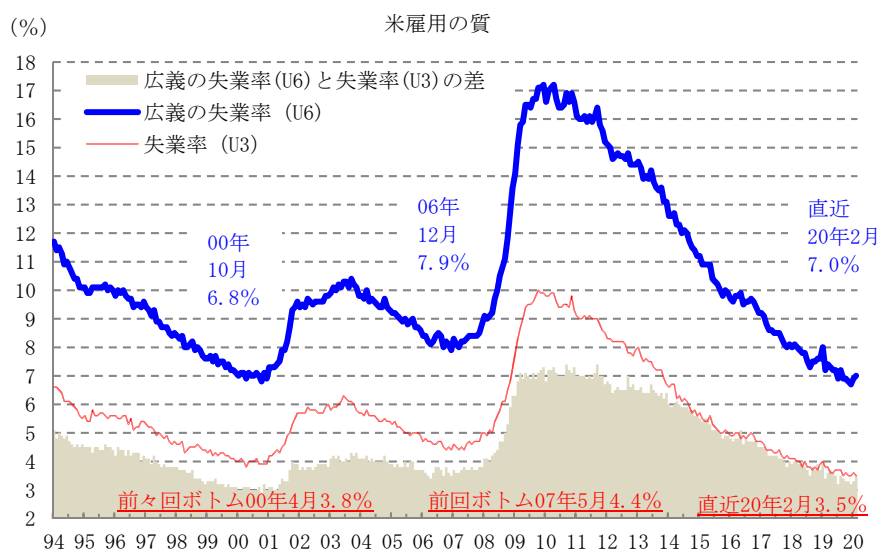


平均時給は、2月に前月比+0.3%（前月同+0.2%）と市場予想の同+0.3%（筆者予想同+0.3%）と一致した。また、前年比+3.0%（前月同+3.1%）と前月から低下し、市場予想の同+3.0%と一致した（筆者予想同+3.0%）。労働市場の改善が続くなか、平均時給は緩やかな上昇を続けている。

なお、PCEデフレーターは前年比+1.7%の上昇にとどまっていることから、実質賃金も上昇基調を維持しており、個人消費を支えている。



2月の失業率（U3、家計調査）は、3.5%（前月3.6%）と前月から低下し、市場予想を下回った（筆者予想3.5%）。小数点第3位までみると、3.517%（前月3.579%）と労働参加率が63.38%（前月63.43%）に低下するなかで、低い水準を維持した。広義の失業率（U6）は、7.0%（前月6.9%）と0.1%p上昇したが、低い水準にとどまっており、労働市場の質の改善傾向に変化はみられない。雇用が労働力人口の増加ペースを引き続き上回って拡大していたことから、失業率は低位で安定していた。



(出所) 米労働省

(注) U6：通常の失業者に加えて、正規雇用を探しているがパートタイムで働いている人や過去1年間に求職活動を行った人を失業者としてカウント

今後に関して、新型コロナウイルスがパンデミックの状況となっており、世界的な感染者数の増加ペースは再加速している。このため、サプライチェーンの毀損による企業活動の制限に加えて感染を警戒した外出の抑制に伴う消費の減速など経済活動が一段と抑制されつつあり、世界的に経済成長率の大幅減速は避けられない状況となっている。

このような状況のもと、米国経済活動は20年前半に鈍化すると予想され、雇用の増加ペースは年央にかけて減速、失業率が小幅上昇すると見込まれる。ただし、世界的な感染者数の増加ペース加速が長期化し、米国内での感染者数も増加を続ければ、政府の大規模な企業支援がない限り、労働市場は急激に悪化すると予想される。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。